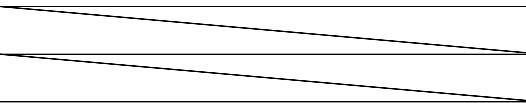
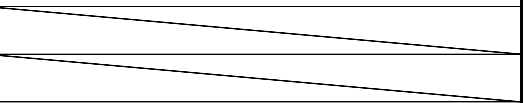
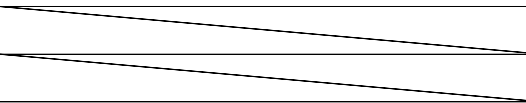
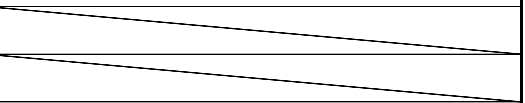
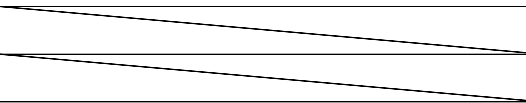


令和6年度 墨田区立墨田中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 小出 和正

学校教育目標	・ 幸福な生涯を実現し、知識基盤社会を生き抜く人格と力量の修得のため、 人権尊重の精神と社会貢献の精神を基調として、知育・徳育・体育の 調和のある人間教育の具現化を目指し、次の教育目標を掲げる。 自ら学び 心豊かで たくましい	○令和6年度 学校経営計画における重点内容 ・ 教師と生徒、生徒間との信頼関係の構築 ・ ユニバーサルデザインを基盤とした授業改善 ・ 特別支援教育の理解深化と実践 ・ 保護者、地域との連携及び各活動の実施 ・ 主体的に行動する生徒の育成 ・ 確かな学力の定着、向上 ・ 不登校生徒（その傾向含む）や特性がある生徒への寄り添った支援
目指す学校像	(1) 確かな学力を身に付け、自ら考え、主体的に行動する生徒を育成する学校 (2) 自他の人権を尊重し、自己肯定感や自己有用感が育つ学校 (3) 成長の段階に応じて心を育み、授業や部活動等で体力向上に努める学校 (4) 生徒・保護者・地域との信頼関係が築かれ、地域と共にある学校 (5) 生徒間、生徒と教師の心理的安全性が確保され、かつ誰一人取り残すことなく、生徒及び教師が笑顔で生活を送れる学校 (6) 働き方改革を推進し、教職員がやりがいをもち健康的に働ける学校	
目指す生徒像	(1) 友達と会える、勉強や部活動など切磋琢磨できるなど、明日も学校に通うのが楽しい生徒 (2) 社会の一員としての自覚をもち、社会に貢献しようとする生徒 (3) 自ら考え判断し、時には協働的に取り組むなど、自ら学びに主体的に行動できる生徒 (4) 人権尊重の精神をもち、自分を大切にするだけでなく、他者も大切にし行動できる心豊かな生徒 (5) 自らの意志で感情をコントロールし、心身ともにたくましい生徒 (6) 自ら率先してあいさつができる生徒	
目指す教師像	(1) 全ての生徒の心に寄り添い、粘り強く支援・指導し続ける教師 (2) 生徒、保護者、地域との信頼関係を率先して築き、よりよい学校、地域を築こうとする教師 (3) 探究心と向上心をもち、自己の資質・能力を高めるとともに、生徒のよさを引き出し、生徒の学力を伸ばせる教師 (4) 組織の一員として学校経営に進んで参画する教師 (5) ICT機器を教師が活用して学力の向上が図れる教師 ICT機器を生徒に活用させ、生徒の学びに向かう姿勢を育むとともに学力の向上が図れる教師	

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標	分析	改善方策	学校関係者評価					
				評価					評価	自己評価	改善方策	意見等	
各教科指導等	教師と生徒との信頼関係の構築	・ 授業等において、生徒を尊重し、かつ公平である ・ 生徒の実態にあわせ、寄り添い、粘り強く支援にあたる ・ 4月9月1月を信頼関係構築重点期間として取り組む	4	教員「生徒との信頼関係の構築に努めた」100%	4	4	生徒「教師に大切にされていると感じる」90%以上	研究における講師（特別支援教育を基盤とした支援、不登校生徒及び保護者との関わり）の話を素直に受け止め、着実な実践が自信を深め、積み重ねにつながった。	教師と生徒との人間関係の構築は、教育を行う上での根幹と考えるため、職員会議や校内研修会等を通じてさらなる構築の向上に努める。	A	A	・ 信頼関係の構築は大切な部分なので、生徒の意見を聞く機会を増やすなども行いながら、引き続き関係の構築に努めていただきたい。	
			3	教員「生徒との信頼関係の構築に努めた」90%以上		3	生徒「教師に大切にされていると感じる」80%以上						
			2	教員「生徒との信頼関係の構築に努めた」80%以上		2	生徒「教師に大切にされていると感じる」70%以上						
			1	教員「生徒との信頼関係の構築に努めた」80%未満		1	生徒「教師に大切にされていると感じる」70%未満						
	確かな学力の育成	・ 校内研究を活用した授業改善 ・ 墨中スタンダードの徹底 ※分かる授業 ※柔軟性ある授業 ※協働的な学び ・ 年2回相互授業参観の実施	4	教員「授業改善に取り組んだ」90%以上	4	4	教員「自己の学習指導力が向上した」90%以上	墨中スタンダード（分かりやすい授業、柔軟性のある授業、協働的な学びの充実）について、組織的に取り組んだ。協議する会が増えるにつれ、理解が深まり、実践の積み重ねにつながった。	学校は教職員が入れ替わるので、新規の教員に対しても風土が継承されるよう、校内研究を年間行事に計画的に組み入れる。相互授業参観は継続する。	A	A	・ 学校評価（生徒）の結果から考えると、もう少し関わられたことがあるのではないかと考える。 ・ 家だとあまり勉強できない生徒に対して、放課後学習のをできないだろうか。	
			3	教員「授業改善に取り組んだ」80%以上		3	教員「自己の学習指導力が向上した」80%以上						
			2	教員「授業改善に取り組んだ」70%以上		2	教員「自己の学習指導力が向上した」70%以上						
			1	教員「授業改善に取り組んだ」70%未満		1	教員「自己の学習指導力が向上した」70%未満						
	生徒の主体性の育成	・ 学校経営方針を基にした教職員の環境づくり（生徒主体の〇〇） 生徒会朝礼、生徒会活動 各行事及び実行委員 ルールメイキング Qubena等を用いた家庭学習	4	教員「各取組においてファシリテートした」90%以上	4	4	生徒「様々な活動で自己の主体性が伸びた」90%以上	3	行事や専門委員会では、個や所属グループの状況を教師が判断しながらのファシリテートが浸透しつつある。着実な実践が、生徒の実感につながった。	生徒が当事者意識をもつよう、教師が様々な活動の場を生徒に提供し、これまでの経験を生かすとともに、個や所属グループの状況を判断した上での支援の充実にを図る。	A	A	・ 生徒の主体性が伸びるよう、場の提供、支援等を引き続き行っていただきたい。 ・ 部活動の活動時間が少ないのではないかと。
			3	教員「各取組においてファシリテートした」80%以上		3	生徒「様々な活動で自己の主体性が伸びた」80%以上						
			2	教員「各取組においてファシリテートした」70%以上		2	生徒「様々な活動で自己の主体性が伸びた」70%以上						
			1	教員「各取組においてファシリテートした」70%未満		1	生徒「様々な活動で自己の主体性が伸びた」70%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標	分析		改善方策	学校関係者評価		
				評価			評価		自己評価	改善方策	意見等
生活指導等	不登校生徒がいる家庭と学校内、外部機関とつながりが必ずある	・特別支援教育委員会及び不登校対策委員会を中心とした組織的な対応 ・SSW等外部機関との連携	4 教員、SC「学校は家庭にはたらきかけ対応している」90%以上	4	4 学校内や外部機関とつながりがとれていない家庭2件以内	4	担任や学年教員を中心に働きかけを行うとともに、生徒や家庭の状況等を鑑みながら、SCやSSWとの連携を図るとともに、状況に応じながら電話連絡や家庭訪問等を丁寧にを行った。	学校を含めた社会と生徒のつながりを大切にし、学校サポートチームを活用しながら、今後も社会とのつながりをもてるよう取り組む。	A	A	・地域の関係機関等様々な資源の活用も、個に応じた支援に含まれていると考えるので、引き続き積極的に活用していった方がよい。 ・遅刻、欠席の理由の分析を確実に行っていただくさい。
			3 教員、SC「学校は家庭にはたらきかけ対応している」80%以上		3 学校内や外部機関とつながりがとれていない家庭3件以内						
			2 教員、SC「学校は家庭にはたらきかけ対応している」70%以上		2 学校内や外部機関とつながりがとれていない家庭6件以内						
			1 教員、SC「学校は家庭にはたらきかけ対応している」70%未満		1 学校内や外部機関とつながりがとれていない家庭6件以上						
	不登校生徒の出現率減少	・特別支援教育委員会及び不登校対策委員会を中心とした組織的な対応 ・学年教員等とSSR担当者との連携 ・墨中不登校フローの実施及び改善	4 教員、SC、SSR「学校は家庭にはたらきかけ対応している」90%以上	4	4 不登校出現率5%未満	1	各委員会では個に応じた支援について協議・組織的な支援を行った。その結果、累積では不登校に該当するが、状況が改善した生徒もいるので、個に応じながら粘り強く取り組むことが重要である。	不登校の状況は生徒により異なるため、個に応じた支援、組織的な対応かつ継続的な関わりをもち、「つながる」を大切にし、「明日への一歩につなげる」よう取り組む。	A	A	・内外に対して、SSルームの取組について、引き続き発信してほしい。
			3 教員、SC、SSR「学校は家庭にはたらきかけ対応している」80%以上		3 不登校出現率6%未満						
			2 教員、SC、SSR「学校は家庭にはたらきかけ対応している」70%以上		2 不登校出現率7%未満						
			1 教員、SC、SSR「学校は家庭にはたらきかけ対応している」70%未満		1 不登校出現率7%以上						
	危機回避能力の育成	・避難訓練（年11回）及び安全指導（年11回）の実施 ・保健体育の授業等体育的活動における熱中症対策 ・東京マイタイムライン等を活用した防災教育の実施	4 教員「避難訓練及び安全指導を計画的に実施した」100%	4	4 保護者「生徒の安全を確保するための取組を組織的にしている」90%以上	3	避難訓練では、垂直避難、Jアラート訓練など様々な災害に対応した訓練が計画的に行えた。また、地域性で、保護者の認識が高いことも考えられる。	令和7年度中学生自主防衛組織を結成し、これまでの活動を継続するとともに、自助・共助の理解を深めるため、防災士による講演会などを行い、防災教育の充実に努める。	A	A	・防災教育の充実は、自助、共助の観点からも求められているところもあると考えるので、充実に努めてほしい。 ・防災活動を通して、地域活動へも積極的に参加できる環境をつくっていただけたらうれしいです。
			3 教員「避難訓練及び安全指導を計画的に実施した」90以上		3 保護者「生徒の安全を確保するための取組を組織的にしている」80%以上						
			2 教員「避難訓練及び安全指導を計画的に実施した」80以上		2 保護者「生徒の安全を確保するための取組を組織的にしている」70%以上						
			1 教員「避難訓練及び安全指導を計画的に実施した」80%未満		1 保護者「生徒の安全を確保するための取組を組織的にしている」70%未満						
学校の管理運営	・教職員の心理的安全性の確保	・校長はできる限り上機嫌でいる ・管理職や主幹教諭は、グループ会議等を行う際、誰もが意見をしやすい雰囲気をつくり、発言者の意見を尊重し受け止める	4 教職員「校長は教職員を尊重にしている」90%以上	4	4 教職員「校長に報・連・相しやすい」90%以上	3	様子を見ながら校長から話しかけるなど、教職員との日常のコミュニケーションを大切ににした。教職員から報告、相談があった際は、まず話を十分聞いた上で次の行動をとった。	引き続き、校長は、至誠に努める。管理職や主幹教諭は教職員を尊重し、日常のコミュニケーションも大切にする。	A	A	・風通しのよい職場の環境づくりは大切なことであると思うので、引き続き取り組んでほしい。 ・アンケートを「管理職は～」にした方がよりよいと思います。
			3 教職員「校長は教職員を尊重にしている」80%以上		3 教職員「校長に報・連・相しやすい」80%以上						
			2 教職員「校長は教職員を尊重にしている」70%以上		2 教職員「校長に報・連・相しやすい」70%以上						
			1 教職員「校長は教職員を尊重にしている」70%未満		1 教職員「校長に報・連・相しやすい」70%未満						
	・服務事故0件	・服務事故防止研修の実施 ※都区等の資料を用いる ※事例を用いる ※他者との意見交換を行う ※管理職等の講話	4 教員「教員としての使命感をもち努めている」100%	4	4 服務事故0件	4		服務事故防止月間で研修を行うだけではなく、直近の報道については職員朝礼等も活用し、日常的に服務事故防止について啓発に努めた。	A	A	・引き続き、保護者、PTAとは特に関係をつくることだが、様々な予防につながると考える。
			3 		3 						
			2 		2 						
			1 教員「教員としての使命感をもち努めている」100%未満		1 服務事故1件以上						
	・適切な教育環境の整備	・教員及び管理員等による日常的な点検、整備 ・庶務課等と連携した環境整備	4 教員・管理員「日常的に教室環境の整備に努めている」100%	4	4 保護者「学校は環境美化に努めている」90%以上	3	日々施設の安全に努めている。異状の際は、迅速な修繕を行った。夏には空調工事（6・5・4階）を行った。保護者アンケートでは89.0%であることから、環境は整っていると考えられる。	令和7年度夏にも空調工事（3・2・1階）を行うが、引き続き、学校全体で、適切な教育環境の整備に努める。	A	A	・地域や関係者に対して、学校が抱え込んでいる環境面での課題や悩みを発信してもらえたらと思う。
			3 教員・管理員「日常的に教室環境の整備に努めている」90%以上		3 保護者「学校は環境美化に努めている」80%以上						
			2 教員・管理員「日常的に教室環境の整備に努めている」80%以上		2 保護者「学校は環境美化に努めている」70%以上						
			1 教員・管理員「日常的に教室環境の整備に努めている」80%未満		1 保護者「学校は環境美化に努めている」70%未満						
家庭・地域連携	墨田中に通わせたい学校である	・いじめ未然防止の実施 ・いじめが起きた際の早期対応、早期解決 ・教師は生徒の思いや考えを受け止める ・分かりやすい授業の実施 ・生徒主体による活動の支援	4 教員「使命感をもち努めている」90%以上	4	4 保護者「安心して通わせることができる」90%以上	4	通年で、個人面談や生活アンケート等を実施し、いじめの未然防止や個に応じた支援の充実等に努めた。学校の取組が、COCOOや学校公開等を通して保護者に伝わった。	教員の組織的かつ意図的な対応が重要であると考ええる。生徒の環境にアンテナを高くもち、些細な変化も見逃さないように努め、迅速かつ丁寧な対応を図る。	A	A	・年々墨田中学校がよくなってきたと感じる。引き続き、生徒や保護者が通いたいと思える学校づくりに努めてほしい。 ・迅速な対応、いつも感謝しております。ありがとうございます。
			3 教員「使命感をもち努めている」80%以上		3 保護者「安心して通わせることができる」80%以上						
			2 教員「使命感をもち努めている」70%以上		2 保護者「安心して通わせることができる」70%以上						
			1 教員「使命感をもち努めている」70%未満		1 保護者「安心して通わせることができる」70%未満						
	学校は教育活動を外部へ発信している	・各種発行 学校だより、学年だより 給食だより、保健だよりなど ・学校HPの適切な更新 ・COCOOの活用 ・PTA運営委員会等での報告	4 教員「学校は様々な方法で教育活動を発信している」90%以上	4	4 保護者「学校は様々な方法で教育活動を発信している」90%以上	3	各種便りを発行するのはもとより、COCOOとの併用や地域との連携を図り情報を発信する。保護者アンケートでは87.1%であることから、定期的・即時的など状況に応じた発信に努めた。	今年度は、学校HPの見やすさ・分かりやすさの向上を図った。情報の発信は今後も行うとともに、読み手側を意識した情報の発信を行う。	A	A	・引き続き、学校の取組を様々な方法で発信し、伝えてほしい。
			3 教員「学校は様々な方法で教育活動を発信している」80%以上		3 保護者「学校は様々な方法で教育活動を発信している」80%以上						
			2 教員「学校は様々な方法で教育活動を発信している」70%以上		2 保護者「学校は様々な方法で教育活動を発信している」70%以上						
			1 教員「学校は様々な方法で教育活動を発信している」70%未満		1 保護者「学校は様々な方法で教育活動を発信している」70%未満						
	地域と連携した子どもの育成	・墨中地区盆踊りの実施 ・祭礼パトロール ・すみだまつりへの参加 ・墨田区総合防災訓練への参加	4 地域「学校は地域と連携している」90%以上	4	4 地域「学校は地域と協力し子どもを育てている」90%以上	4	学校と地域との十分なコミュニケーションが図られ、学校も活動に参加するなど、協働した活動が円滑に実施できた。	地域との連携なくして、本活動はできない。引き続き、地域との連携を深め、子どもを共に育てる協働的な活動の充実に努めると同時に学校も発信を行う。	A	A	・地域と学校とで連携した取組は、非常に評価できるものであり、これからも大切にしていってほしい。
			3 地域「学校は地域と連携している」80%以上		3 地域「学校は地域と協力し子どもを育てている」80%以上						
			2 地域「学校は地域と連携している」70%以上		2 地域「学校は地域と協力し子どもを育てている」80%以上						
			1 地域「学校は地域と連携している」70%未満		1 地域「学校は地域と協力し子どもを育てている」80%未満						

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）
・生徒アンケートでは「学校生活が充実している（90.8%）」「学校生活が満足している（88.2%）」であった。研究を通した教職員の意識の変容（授業、生徒や保護者との関わり等）に伴う各取組の見直し・改善や特別支援教育への理解を深めたことによる支援の充実を中心に学校全体で取り組んだ結果と考える。落ち着いた中での授業や学校生活はもとより、「生徒の主体的な活動」をより重視するとともに、今後も地域・社会との連携を強化し、地域に開かれた学校の推進に努める。